

西諸島地域の普及活動

令和6年2月
西諸島農林振興局
(西諸島農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 2月期子牛郡品評会が開催

6日、小林地域家畜市場において、西諸島郡市畜連主催による令和6年2月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には50頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、尙等賞に20頭、式等賞に23頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は高原町の〇氏出品の「みい」号(福晴茂-美徳国-耕富士)、2席と3席は小林市のT氏出品の「ひかる1399」号(二刀流-福晴茂-忠富士)、「ひかる1398」号(満点白清-耕富士-美徳国)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、輪郭鮮明、毛質良好、雌牛らしい品位に富んでいたとの講評でした。



【優等賞首席のみい号】

2) 小林特別栽培米講習会の開催

13日、普及センターにおいて、JAこばやし主催による特別栽培米の講習会が開催されました。

12名の生産者が参加され、普及センターからは令和5年度の気象・生育概況、令和6年度の特別栽培米暦について説明しました。

また、未熟粒発生のメカニズムと基本的な技術の励行について講習を行い、参加者からも非常に好評でした。

講習会終了後に食味鑑定会を行い、地域内のヒノヒカリと他品種の食べ比べを行い、良食味米生産への意識向上にも繋がりました。



【未熟粒の発生メカニズムを説明する様子】

3) 種子用大豆農産物検査

8日、JAえびの市にて種子用大豆の農産物検査を行いました。

今年度も生産者が20a分の種子生産を行い、10袋分が合格となり、発芽率および種子品質は良好で、種子として取扱うこととなりました。

来年度も引き続き関係機関や生産者と連携しながら、適正管理の支援を行っていきます。



【種子検査の様子】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現に向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

7日に、小林市でキクでの就農希望者からの相談に対応しました。その方は、花き関連の法人に勤務し始めて間もなく、約2年後に独立就農を考えているとのことでした。普及センターからは、現時点での新規就農者に対する支援策やキクの特徴などの情報提供と、早めに就農計画作成に取りかかることを助言しました。

28日に、えびの市で父親の肉用牛繁殖経営を継承して就農を考えている方からの相談に対応しました。その方は、認定新規就農者の認定取得を希望されており、今回は就農計画の内容について検討を行いました。

今後も、就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：施設キク1名 えびの市：肉用牛繁殖1名)

2) 農業次世代人材投資事業活用者の就農状況等の確認

6日と16日に、えびの市で、国の補助事業を活用している新規就農者6件の就農状況等の確認を行いました。病虫害等の被害で計画どおりの経営ができていない方もいましたが、各々課題解決に向けた対策をされておりました。

9日に、高原町で、施設きゅうりで新規就農に、国の補助事業を活用している2件の就農状況等の確認を行いました。それぞれ就農年数は違いますが、経営改善や今後の営農についてしっかり考えていました。

今後もサポートチーム中心に連携しながら支援していきます。

3) 令和5年度宮崎県SAPグランプリに小林市SAP会議、えびの市SAP会議会員が出席し、優秀賞を受賞

2日、宮崎県庁附属棟にて、宮崎県SAPグランプリが開催され、小林市SAP会議とえびの市SAP会議から1名ずつ出場しました。小林の会員は意見発表、えびの市の会員はプロジェクト発表に出席し、どちらも優秀賞を受賞しました。また、えびの市の会員は、来年度開催される九州・沖縄地区青年農業者会議(九州大会)に出場することが決まりました。

今後も、SAP会員の資質向上に向け支援していきます。



【えびの市SAP会議会員 PJ発表】



【小林市SAP会議会員 意見発表】



【集合写真(発表者・補助者)】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 次世代型水田農業推進会議の開催

19日に、管内市町、JA、NOSAI、振興局による次世代型水田農業推進会議 担当者ワーキンググループ全体会（以下、全体会）を開催しました。

各地域の担当者ワーキンググループ（以下、担当者WG）では、地域の現状や動きを把握して課題を明らかにするため、地域全体を俯瞰する地図の作成に向けた検討を続けています。

全体会では各担当者WGの活動経過及び課題について意見交換を行うとともに、飼料用米「ひなたみどり」の紹介等、地域の活動状況についても情報共有を行いました。

今後も、全体会を通して情報共有を行いながら、各地区の担当者WGで西諸県地域の水田営農の維持・発展に向けた検討を行っていきます。

2) ほ場管理システムについて、意見交換会を実施

29日に、ほ場管理システムを導入している生産者に対し、効果的な利用方法について、全農のシステム担当を交えて意見交換会を実施しました。

このシステムは、場の地力や生育の状況等、様々な情報を把握できるもので、生産者は熱心に質問しながら、利用方法について理解を深めていました。

今後も、普及センターでは経営・生産管理システムを活用した経営改善について支援していきます。



【意見交換会の様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) さといも採種栽培の継続に向けた取り組み

西諸県地区はさといもの種芋産地ですが、栽培面積は年々減少しています。そこで、県単事業によってコンサルタント業者を活用し、採種栽培の拡大に向けた課題と対策の整理に取り組んでいます。

5日と13日に、管内法人及びJAこばやしによる種芋の調整・選別作業の視察と意見交換を行いました。

今後も西諸県地域で採種栽培を継続できるように、関係機関と連携して、作業の機械化や受委託化を図っていきます。



【芋選別機を見ながらの検討】

2) しょうがの栽培講習会を開催

9日に、JAこばやしで生産者16名が参加ししょうがの栽培講習会を開催しました。

研修会では、今作の栽培暦に基づいた栽培のポイントや注意点などについて説明を行いました。

今シーズンも、講習会の実施、栽培期間中の現地巡回などの支援を行いたいです。



栽培講習会

3) 令和5年度JAこばやし甘藷部会総会の開催

20日に、JAこばやしにおいて、令和5年度JAこばやし甘藷部会総会が開催されました。

総会では、令和5年度事業実績及び収支決算や次年度の計画等が議論され、全ての議案が承認されました。

次年度の計画では、新たな部会目標の設定や生産性向上対策を充実させていくことも決まり、部会全体の気運の高まりを感じました。



【定期総会】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご部会目揃え会

20日に、JAえびの市いちご部会の目揃え会が開催されました。出荷量が増えるこの時期に、収穫時の果色や収穫後の温度管理など、改めて確認することができました。

また、目揃え会の後、普及センターから、うどんこ病や炭そ病の原因や対策について説明があり、生産者からは、病気を出さない温湿度管理や展着剤を活用した防除について質問がありました。引き続き巡回において、栽培管理等への助言を行っていきます。



【収穫時の果色を確認する生産者】

2) JAこばやし「促成きゅうり若手研究会」勉強会

28日に、JAこばやしの促成きゅうり若手研究会主催の勉強会が開催されました。会には、環境測定機を導入している若手生産者とJAこばやしの指導員、普及センターが参加し、他の生産者の温湿度管理や日射量、出荷量などをグラフにした資料をもとに、意見交換が行われました。

データを効果的に活用できるよう、引き続きデータ分析や、データの活用方法の検討を行い、部会全体の収量向上に寄与していきます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 総合農業試験場研究員とぶどう・なし若手生産者の意見交換会

22日に、小林市内でぐれ〜ぷ（小林市の若手生産者）とOsuzuVines（尾鈴の若手生産者）、総合農業試験場果樹部研究員の意見交換会を開催し、15名程度が参加しました。現地視察では、小林市の生産者の園地を見学し、室内検討では果樹部からの情報提供ののちに、シャインマスカットの未開花症や、なしの発芽不良などについて意見交換が行われました。両地域の生産者同士で活発な意見交換が行われ、両グループの親睦も深まりました。

今後も、関係機関と協力し、高品質な梨ぶどう生産への支援を行います。



【ぶどう・なし意見交換会】

2) JAこばやし梨ぶどう生産部会定期総会で園地台帳作成の協力を依頼

27日に、小林市内で、JAこばやし梨ぶどう生産部会定期総会が開催され、生産者約20名と関係機関職員が参加しました。今年度は4年ぶりに集合して開催することとなり、盛んな意見交換が行われました。また、来年度に園地台帳を作成することから、普及センターから聞き取りの協力を求めたところ、理解を得られました。

引き続き関係機関で協力し、高品質な梨ぶどう生産への支援を行います。



【JAこばやし梨ぶどう総会】

3) JAこばやしマンゴー部会 園地台帳整理に向けた聞き取り

8日と19日に、JAこばやしマンゴー部会員に対して園地台帳の整理に向けた聞き取りを行いました。内容は、所有する施設等の情報で、今後の産地の生産能力の予測や事業承継などに、有効に役立っています。今年度中の完成を目指し、現在の部会員30名中22名の聞き取りが完了しました。

今後も、関係機関と協力し、マンゴー産地の持続的な発展への支援を行っていきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) JAこばやし花卉部会定例巡回及び定例会

15日に、JAこばやし花卉部会員4戸の定期巡回が行われ、生産者4名と関係機関4名が出席しました。3月彼岸出荷を中心に巡回し、生育を確認しました。

定例会では、JA販売課から情勢報告、普及センターから害虫対策のための粒剤の説明を行いました。また、普及センターから担い手の受入れ事業について説明し、部会としての新規就農者の受入れ体制について検討されました。



【JAこばやし花卉部会定例会】

2) 西諸県地区キイチゴ「ベビーハンズ」の栽培講習会の開催

26日に、JAえびの市にて、キイチゴ「ベビーハンズ」の栽培講習会を開催し、生産者14名と関係機関から6名が出席しました。

室内講習会では、キイチゴにおける経営事例や1年間の管理、害虫と展着剤の利用に重点を置き説明しました。

現地視察では、JAえびの市管内のキイチゴほ場での意見交換が活発に実施され、新規定植者を含めた交流が行われました。



【キイチゴ栽培講習会】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 第3回促成ピーマン現地検討会

5日に、ピーマン共計委員会の現地検討会に参加しました。JA児湯管内の1戸、JA西都管内の1戸、JA宮崎中央の1戸を巡回し、その後、JA、普及指導員、専門技術指導員、試験場研究員との意見交換が行われました。

京鈴の後継品種として候補となっている2品種について、各産地の試験栽培の状況など情報共有が行われ、それらをもとに、後継品種を概ね確定しました。

引き続き、西諸県地域においても、新品種の品種特性を確認していくとともに、各地域との意見交換を行い、管理技術の確立を図っていきます。



【現地ほ場で栽培状況を確認する様子】

2) 営振協野菜部会展示ほ検討会（夏秋品目）

16日に、宮崎県総合農業試験場において標記検討会が開催されました。西諸県では、夏秋ピーマンの線虫抵抗性台木について展示ほを設置しており、その実績を報告しました。来年度も引き続き展示ほとして調査を続けることとなりました。

来年度は、上記以外に、夏秋ピーマンにおける土着天敵の利用に関する展示ほも設置する計画としており、引き続き調査を行うとともに、技術の波及を図っていきます。

3) JAこばやしマンゴー部会 運営委員会

26日に、小林市野尻町内にて、JAこばやしマンゴー部会の運営委員会が開催され、生産者約10名の他、JAこばやしと普及センターの担当者が参加しました。JA担当者から出荷経費見直し案等について説明があり、検討が行われました。出荷経費の引き上げについては、生産者から「経営が苦しいが、このご時世避けられないこと」と理解を得られました。また、マンゴーの販売が始まることから、販促活動等の活動を計画しました。



【マンゴー部会運営委員会】

今後も、引き続き関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産・販売への支援を行います。

4) 「花の祭典2024」が開催され西諸県管内の花きが出展

3～4日に、イオンモール宮崎にて県産花き展示会2024が開催されました。西諸県地域からは、キクやラナンキュラス、ユーカリ、キイチゴの24点が出典されました。

人気投票では、華やかなラナンキュラスに多くの票が入りました。また、珍しいキクの染色は、来場者から高評価をいただきました。



【西諸県管内の出典花き】

5) 小林市花き振興会による花育活動

16日に、小林市花き振興会の活動の一環として、小林市内にある東方保育園で、鉢苗物を使った花育が実施されました。管内の鉢苗物生産者2名とキク生産者1名、関係機関2名で園児11名の寄せ植え花育を支援しました。説明や寄せ植え支援などは生産者中心に行い、園児たちも楽しそうに花を愛でていました。



【西諸県管内の鉢苗物の花育活動】

6) 県下でのランンキュラス研修会の開催

19日に、JAこばやし高原支所で室内検討、JAこばやし管内のほ場1カ所で現地検討が実施されました。

室内検討では、管内の花屋によるランンキュラスを使ったアレンジのデモンストレーションが行われるとともに、専門技術センターからは安定生産技術、総合農業試験場花き部からは高温対策について説明をいただきました。



【ランンキュラス研修会の現地検討】

7) 令和5年度西諸県地区茶業振興協議会定期総会の開催

20日に、小林市内において令和5年度西諸県地区茶業振興協議会定期総会が開催され、生産者14名と関係機関から9名の23名が出席しました。

総会では、令和5年度事業実績及び収支決算や来年度以降の役員体制、連絡体制等が議論され、全ての議案が承認されました。次年度も、荒茶求評会、視察研修等などを充実させていくことも決まりました。また、議事終了後には、令和5年度の茶情勢の報告等が行われました。

今後も関係機関で協力し、高品質茶生産への支援を行います。